

AI×専門技術で地域産業の未来を創る「アドバンスト・マイスター」へ

背景

- AI・ロボット・IoT・VR等の先端技術の進展を踏まえ、これまでの専門教育を基盤に、**先端技術と専門技術を活用して企業や地域の課題解決から社会実装まで**担う人材の育成が求められている。

事業概要

- ✓ AI・先端技術×専門技術を融合し、地域産業の未来を担う人材を育成
- ✓ 学校独自科目を設定し、先端技術や地域産業への理解から、課題解決型学習、社会実装を目指す実践的な学びへと段階的に発展
- ✓ 企業・大学と連携し、実社会の課題解決に取り組むPBLを展開
- ✓ 先端設備で「ものづくり」ができるラボを設置し、他校生徒も利用可能に

主な指標 (抜粋)

- 先端技術の学びを活かした職種への県内就職者数
- AI・ロボット等の先端技術を授業の中で活用した専門科目の数

(R10) 50人 ⇒ (R13) 120人
15科目 ⇒ 30科目



AI・データサイエンスで地域と社会の未来を創る共創・理数探究人材へ

背景

- 少子化や生成AI等の技術革新を踏まえ、武雄市との地域探究の実績や県立宇宙科学館などの地域資源を生かし、**文理横断的な視点で課題を発見・解決するAI・データサイエンス基盤の探究教育**を推進する。

事業概要

- ✓ 文理を問わず、AI・データサイエンスを活用し、科学的根拠に基づき課題解決できる人材を育成
- ✓ 科学的に問いを立てる学びから、データを活用して課題を解決する学び、さらに地域や社会へ成果をつなげる学びへと発展
- ✓ 有明海、防災、まちづくり、宇宙等を題材に地域課題へ挑戦
- ✓ 課題分析ができるAIデータスタジオや、試作等も可能なラボを設置し、高度な探究の拠点に

主な指標 (抜粋)

- 理工農情報系大学への進学割合
- AI活用・データ活用能力が自己評価で1段階以上伸長した生徒の割合

(現状) 50% ⇒ (R10) 55% ⇒ (R13) 60%
— ⇒ 65% ⇒ 90%



ICTで誰一人取り残さない 「教育の不平等ゼロ」へ

背景

- ・ 少子化に伴う学校の小規模化により学校間で教育機会や進路支援に差が生じるとともに、不登校・長期欠席生徒や日本語指導を必要とする生徒が増加しており、一人ひとりに応じた支援が求められている。

事業概要

- ✓ 同時双方向配信等を活用し、小規模校における学びの選択肢を拡大
- ✓ 「ハイブリッド合同探究」により学校を越えた探究活動を実施
- ✓ 不登校生徒や日本語指導が必要な生徒へ多様な学習機会と相談・交流の場を提供
- ✓ 「白石高校商業科キャンパス」に県内全域を対象とした遠隔教育環境を整備

主な指標 （抜粋）

- ・ 遠隔授業を実施する学校の数
- ・ 必要な学びにアクセスできると回答した生徒の割合

(現状) (R10) (R13)
0校 ⇒ 18校 ⇒ 22校
— ⇒ 70% ⇒ 85%



類型1：アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

佐賀県立佐賀商業高等学校

全日制／商業科

AIとデータで地域の未来を 創る商業イノベーション人材へ

背景

- ・ AI・デジタル技術の進展を踏まえ、資格取得重視の商業教育から、地域課題をデータに基づき分析し、新たな商品・サービスや事業を創造・実装できる課題発見・価値創造型人材の育成への転換が求められている。

事業概要

- ✓ 企業や社会の課題から新たな価値を創造する「商業イノベーション人材」の育成に向けた体系的な教育課程の構築
- ✓ IT企業と連携し、AIの仕組みやデータ活用の基礎から、情報収集・分析・企画立案までを学ぶ
- ✓ 「大学連携PBL（課題研究）」において、佐賀大学・佐賀県立大学（仮称）と連携しながら、アイデアを実社会で試し、新たな価値を生み出す力を育む

主な指標 （抜粋）

- ・ 総合型選抜及び学校推薦型選抜による大学合格者数
- ・ 企画・EC・DX・マーケティング等、学習内容を生かす分野（起業・事業承継を含む）への就職割合

(現状) (R10) (R13)
81人 ⇒ 100人 ⇒ 120人
26% ⇒ 50% ⇒ 70%

